

震災へのお見舞いと第8回全国大会のご報告

2011年3月14日 大学評価学会理事会

3月11日午後に発生した東北地方太平洋沖地震は、東日本を中心とした広範な地域に甚大な被害をもたらしました。被害の全容はまだ明らかになっておりませんが、被災された地域の方々に心からのお見舞いを申し上げます。亡くなられた方々に衷心から哀悼の意を表します。まだ多くの方が行方不明であったり、避難されたりしています。人命救助や救援が行われ、これ以上の被害が広がらないように願うばかりです。政府等の諸機関によって適切な対応がとられ、一日も早い復旧がなされるよう求めるものです。

さて、このような状況でありましたが、大学評価学会は、3月12日、13日の2日間、京都橘大学において第8回全国大会を開催いたしました。初日（12日）のシンポジウムの開催に先立って、参加者で黙祷をささげました。大会の参加者は例年を下回りましたが、これにも震災の影響が及んでいるものと思われまます。実際、報告を予定された方で、京都までたどり着けずに引き返した方もおられます。

今回の大会テーマは「大学政策と大学評価」でありました。大学評価を社会的な文脈において検討するという点で、大学評価学会ならではのものであったと振り返っております。シンポジウム、分科会とも充実した報告と熱気溢れる議論が行われました。

大震災の被害を通じて、日本の社会が直面する課題も明らかになりつつあるように思われます。そのような状況のもとで、本学会として、日本の大学と大学評価をどのように考えていくかが問われているものと考えます。大学評価学会として、決意を新たにして、震災へのお見舞いを申し上げますとともに、第8回全国大会のご報告をさせていただきます。